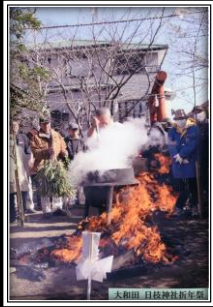




大和田日枝神社新年祭 ～陽の花神事～



大和田地区の無病息災・交通安全祈願、海と田畑の安全を祈願。現在は海はなし。内容は大釜に湯を沸かし人見神社の宮司さんが笹の木を2本束ねて湯をかき混ぜる。湯柱が立ったら宮司さんが参列者に笹の木で湯飛沫をかける。

日枝神社は日鉄大和田社宅造成で現在の場所に移設。神事は明治以前に始まったと思われる。

大和田自治会

陽光台まつり

始まりは30年以上前から。新型コロナで3年間で中止したが、毎年自治会館前の通路と西公園で交互に実施してきた。昨年はフリーマーケットも実施。



今年は生涯学習交流センターの多目的ホールで、子供を中心としたお祭りを開催。

陽光台自治会

中富石上神社祭礼



13:30に神社を出発し5か所の御旅所(おたびどころ)を回り神社に帰ってくるのが17:00ぐらいであるが、今年は雨の為、途中で中止とした。

発祥や由来についてはさだかではありませんが、江戸時代から木更津に渡り、各地に広められ受け継がれてきたものと見られる。

中富自治会



御霊神社例大祭



古代よりこの地域を支配していた実力者の霊を慰める行事が行われていたと思われる。現在の形になったのは昭和の晩年に区画整理組合が神輿を新調し神社に寄付してくれたから。それ以降祭礼は盛大に挙行されてきた。

御霊神社中野太鼓連

祭礼に五穀豊穡を感謝すると共に、世の安寧と地域の発展を祈る行事で、祭囃子を先頭に神輿が地域内を巡る。

中野自治会

大宮神社祭礼



太鼓保存会

現在の太鼓保存会は40年前に祭囃子が上湯江から消えてしまうという危機感から有志が集まり、祭囃子を覚えていた親世代から習い、小学生に教えたのが始まり。

大宮神社祭礼への参加。宵祭りでの子供の祭囃子披露と後継者育成。

上湯江自治会



大宮神社祭礼

久保大宮神社では、さまざまな祭りや行事が行われている。これには例えば例大祭や神輿渡御、季節ごとの祭りなどが含まれる。地域の伝統的な行事として、地元のコミュニティが参加し、神社に参詣して神々への祈りを捧げる。

久保大宮神社は、古代の神社で、その歴史は古く、正確な起源は不明だが、平安時代の文化財や史料にその名前が記録されている。神社の創建については伝承があり、地元の人々によって大切に守られてきた。



大宮神社久保祭保存会
大宮神社氏子会
若駒会(囃子)



納涼祭

毎年8月下旬、高畑公園(南久保3丁目)において、地域の親睦を図ると同時に、子供たちの夏休み・故郷での思い出づくりの為に開催される。

平成28年に納涼祭としてスタートし、本年度で5回目の開催となる。(R2~R4コロナ禍のため中止)

久保自治会

秋の収穫祭 ～枝豆狩りin 三舟山～



三舟山にて小糸在来種の枝豆狩りを行い、自治会員の親睦を図る。

10年前から、天候により開催出来ない年度あり。

納涼祭

台自治会館 公園にて自治会員の親睦を図る。
(演芸大会・踊り・カラオケ・楽器演奏・他)
縁日・模擬店・ゲーム大会などが行われる。

20~30年の歴史があり、盆踊りから演芸大会へと進展してきた。

台自治会



この「地域お祭り紹介」の紹介文は、各自治会長、神社の祭礼保存会の皆様、関係の皆様などからお寄せいただいたものを掲載させていただいております。

郡春日神社例大祭



郡春日神社祭囃子保存会

昭和57年に始まりもともと有郡会（ゆうこかい）という青年団から郡の大人と子供が一緒に笛と太鼓を覚えるために練習をしていたが、若手が少なくなり少人数の大人が太鼓の先生となり教えてきた。6~7年前から保存会を発足し、郡・杉谷・新御堂・郡の杜の人々が春日神社の例大祭を活性化させている。



郡自治会・新御堂自治会
郡の杜自治会・杉谷自治会
4地区合同で開催している。

郡、杉谷、新御堂および、郡の杜各自治会と郡春日神社の氏子を中心となり、例大祭を執り行う。

貞元地区夏祭り大会



令和元年まで43回にわたり盆踊り大会として開催してきたが、新型コロナウイルスの影響と踊り手が減少した事により令和5年度は第1回夏祭り大会として再開した。

貞元地区自治会連絡協議会

八幡神社 春祭り・秋祭り

地域の五穀豊穡・安全・健康祈願

八幡神社に氏子と八幡、貞元各自治会長、貞元各台（地域）の総代が神事を行うだけとなっている。

八幡自治会



八幡神社祭礼(釜神地区)

八幡神社は春の例大祭と秋の例大祭があり、春は神社で神事のみが行われる。秋は神事のあと神輿や山車が各集落を回った。その際の祭囃子を継承するために小学生を中心に練習をしている。（小学生に限定していません）。八幡神社のエリアは八幡自治会と貞元自治会（釜神は貞元自治会の構成団体）。

八幡神社の祭礼がいつごろから行われているのかは不明。戦後途絶えていたものを昭和50年ごろから当時の八万講（青年部のようなもの）が中心となって、祭囃子の練習を始めた。昭和52年に神輿（酒樽を利用した樽神輿）や山車、大提灯を新調（すべて手作り）し、祭礼としての行事を復活させ現在に至っている。その方法については時代に応じて変化しており、現在は神輿だけを使用している。ここ数年、集落に小学生がいなかったため祭囃子の練習を中断していたが、本年久しぶりに入学生があり、練習を再開した。

貞元自治会 釜神台 総代

地域のお祭り紹介

ご近所ネットワーク再発見

